



寺尾 文彦

実行委員長

「♪みどりほほえむ～、紅石山～♪……」こぶしのきいた演歌での校歌が11月20日(日)に養治小学校の校舎に響き、風に舞って地域に降り注がれた。

卒業生である山本讓二氏の60年前の時代が繋がった瞬間だ。今回の創立記念のテーマは「つなぐ」である。150年前、この地区に養治小学校が生まれた。その地域からの人と人とのつながりや、心と心のつながりで150年の歴史を刻んだ。いわば、地域と人々のつながりのおかげで今がある。そして、養治小学校のおかげで、その地域や人々の絆が強くな

り心に潤いができた。この相互関係は人の心に思い出を作り、ふるさとを創った。本当に素晴らしい事である。今度は、このふるさとを、思い出を、次の世代や時代につなげる事が、今の私達にとって地域や人々や養治小学校への恩返しである。この気持ちを忘れずに大切にしていきたいと切に思う。今回、無事に記念事業が終了したのも地域や皆様のおかげであります。全ての人に、全ての地域に、本当に感謝いたします。そして、ありがとう!!

「……♪われらの養治小学校♪」

10月29日(土) 十時より開場。内山会長、河村、佐々木、安田の四人で受付。来場者にチラシを配り、13種類の缶バッジを販売。隣のブースでは、下商の学生さん達が制服姿で、チャレンジショップ(ふく刺しや和菓子などを販売)していた。

10月30日(日) 二日目、女性軍の尾辻さんも加わり、受付も楽になったので、交代で他のPRブースを見学した。

会場は海峡メッセ一階見本市会場と四階イベントホールだ。一階には右記の他に、南部町郵便局が日本遺産下関の切手販売や、ぼすくまの着ぐるみで会場を練り歩いていた。小ステージでは、バナナの叩き売りや、紙芝居などで盛り上げていた。四階は全国から集

- ・ 中東地区まち協は、「まちめぐりデジタルマップ」の関門エリアの見どころ」のチラシA3版を千部作成して配布し、チラシに中東地区の名所
- ・ 旧跡のデジタルマップを掲載し、QRコードで動画を配信できるようにした。
- ・ このチラシを、畳半分くらいに拡大して横壁に展示し、ブース内に、モニターを持ち込み、「中東まち協の活動の歩み」の動画とヘリコプターから空撮した関門海峡の景観を常時放映した。
- ・ 中東地区名所・旧跡デザインのオリジナル缶バッジ(200円)とキーホルダー(300円)の注文を受け、その場で作成して販売した。
- ・ 金子みすゞの小冊子(1冊300円)販売。
- ・ 長府地区まち協さんは、地酒・饅頭・せんべいを販売。
- ・ 彦島まち協さんは、パネル展示をした。

全国に、日本遺産団体が百四団体あり、それぞれストーリーがある。本年は、下関市と北九州市(門司・小倉・若松)が連携して、関門地区イベントを開催する事になった。10月29日・30日(日本遺産フェスティバルin関門)のメイン会場「海峡メッセ下関」展示ブースに、日本遺産がある海峡沿いの中東・彦島・長府地区の三まち協が共同で出展した。

日本遺産フェスティバルin関門 まち協ブース出展

事務局長 安田 和夫



まった各県の日本遺産の紹介ブースがあり、それぞれ工夫を凝らして紹介していた。

アンケートに答えたら、資料や缶バッジを差し上げますというブースが多かった。鳥取県ブースでは、砂丘の砂を二種類掛けると、可愛い絵ハガキができて面白かった。全国各地の出展を見ると、どれも大自然と共生していて、景観の素晴らしい所ばかりだった。お金と時間があれば、是非行ってみたいなあと思った。

二会場でスタンプリーがあり、五ヶ所をのりした人には、豪華景品が当たる抽選場所もあり、私もくじを引いたがスカだった。残念。隣の海峡ゆめ広場では「海響グルメフェス」が開催され、ふく井を堪能。美味しかった。(M) 天気が良かったので、皆さん色々なグルメを堪能していた。まち協ブースにも沢山の人が立ち寄り、缶バッジも随分売れた。(約50個) 中東スタップが着ていた「まち協Tシャツ」の背中のデザインをして頂いた村井先生ご夫妻も来場され、Tシャツや缶バッジを見て大変喜ばれ、自身のデザインの缶バッジ三種購入された。有難うございました。(M) 十六時 イベント終了。後片付けをしていたら、下商の女の子から「鯨カレーを買って下さい」と懇願されたので買って、長府まち協さんの売上にも協力して地酒と饅頭を下げて帰宅した。皆さんお疲れ様でした。全国から来られた人も、海峡のまち下関を満喫された事と思う。